

放射能被曝の脅威にさらされて

2011・9・12

須田 稔

I

怒りよりも哀しみ 不安と無力感です
地震や津波のほかあらゆる災害を想定せず
「想定外」と弁解する東京電力に呆然
「安全神話」を植え付けた罪をあやまらず
わたしたちこそ こんな惨害は想定外です

さくらんぼ 桃 梨 葡萄、林檎、水とお酒
おいしいものが お米もふくめて豊かなのに
家でとれた野菜なのに 子どもが居る家には
放射能が気になって お裾分けできないの
自然の恵みを断ち切られた悲しさが
分かりますか

住む家があり耕す田畑があるのに 家族四人
四畳半二間の仮設住宅に避難させられて
補償金やるからと 動物園の生きもの扱い
除染と呼んで 表面の土を削って捨てる
捨てられた所は 汚染濃度が高くなり
庭の隅に肥料用にまとめていた落ち葉が
1・9マイクロシーベルト 室内0・17
金沢の孫たちも千葉の孫たちも来ないので
「放射能がなくなったら行くね」と言う
「そうだね」と私 来れる日はないだろう

七月に福島の息子夫婦に子どもが生まれて
出産祝いしてくれるなら「累積線量計」をと
そんな贈り物で 残酷で くやしくて
ああ わたしは 無知だった 騙されていた
思い知らされ 口惜し涙がとまらない

原発はこれほど未完成で危険な代物
これほども政治が大会社に牛耳られている
ふるさとを奪い 自然と孫との繋がりを奪う
源は強欲と支配欲の巨大な集積なのでしょう
無情を怒り 無常感に襲われ 鞭打つのです

II

電気が無くても 家族が揃って暮らせるなら
一本のローソクがあればいい
避難を命じられて ひと月離れて暮らしたが
飼育していた豚は 九割が死に絶えていた
妻と長女は「行方不明者」のまま

ひと月半して 隣町は搜索が始まったが
わたしは 妻の実家の岡山に妻の父を訪ねた
ひと月前に 義父は喜寿を祝ったところ
二日後に大熊町に帰って やがて妻らしい
遺体が発掘されたが DNA鑑定に1ヵ月
六月半ば 毎時40マイクロシーベルトゆえ
二時間だけ帰れて 妻の無残な車が見つかり
免許証も財布もエンジン・キーも
葬儀は50キロ離れた いわき市で
基準値以下の写真だけが除染して持ち帰れて

小学三年生の次女の哀しみと寂しさを想うと
くじけてなるものかと 唇を噛むのです
生業をどうするか どこに住むか
資金の調達は 生活費は 確かな展望はない

大津波と東京電力原発事故に翻弄されて
夫婦と娘二人と豚たちで つつましい暮らし
幸せは三月一日午後二時五六分に暗転
放射能の脅威があるかぎり
私たちは故郷喪失者 難民 原発なる暴力の
私たちは この国の主権者

幸福追求の権利が みんなにある
便利や効率や恰好よさが幸福か
竈でご飯を炊く 薪をくべる 煙 湯気
炉で核燃料を燃やし 蒸気で発電の原発
自然の摂理に逆らう文明は拒否するのです

(IはジャーナリストS・T氏の講演に感動した女性
の手紙、IIはTVのドキュメンタリー番組が素材)